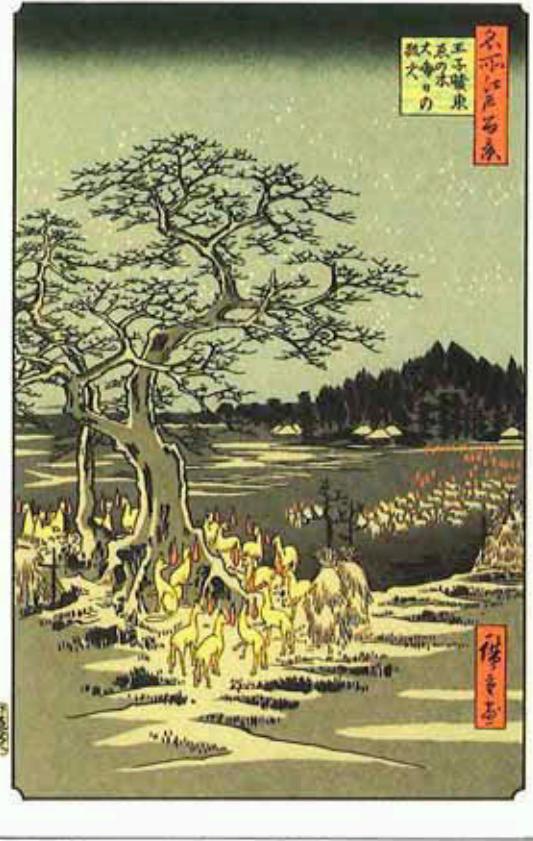


II 豊島氏ゆかりの古い神社 II



現在の本殿は戦後の昭和35年に再建されたもの。境内は広く2千坪あり、絵にある本殿の裏の石垣は今でもある。



### 「王子装束えの木大晦日の狐火」

毎年大晦日の夜、関東各地から集まってきた狐が東側にある装束稻荷の大権の下で衣裳を改め王子稻荷神社に参拝したといふいいつたえがある。

現在も北区の主催で毎年12月31日に「王子狐の行列」が行われている。新年を迎える伝統行事。



### 佐々木 愛



「浮世絵師の歌川広重の『名所江戸百景』の中に、たくさんのかが集まる『王子装束えの木大晦日の狐火』といふ不思議で魅力のある作品があります。幕末、大地震が相次ぎましたが、庶民はくじけない。おせんは王子の縄暖簾の店の女将。苦労続きなのに信心深くに説明するのです」

問い合わせは03・38828・2216へ。

【高橋豊】

### 「王子の狐」を企画、主演

「文化座の本拠地は東京都北区田端。同じ北区の王子では、毎年大みそかに多くの人が集まって、新年のカウントダウンと共に狐の化粧、装束姿で王子稻荷神社へ初詣でします。7年前、地元の人にお説いて、私も劇団員と『王子の狐の行列』に初参加したら、面白くて。これを題材にして劇を作りたいと思いました」

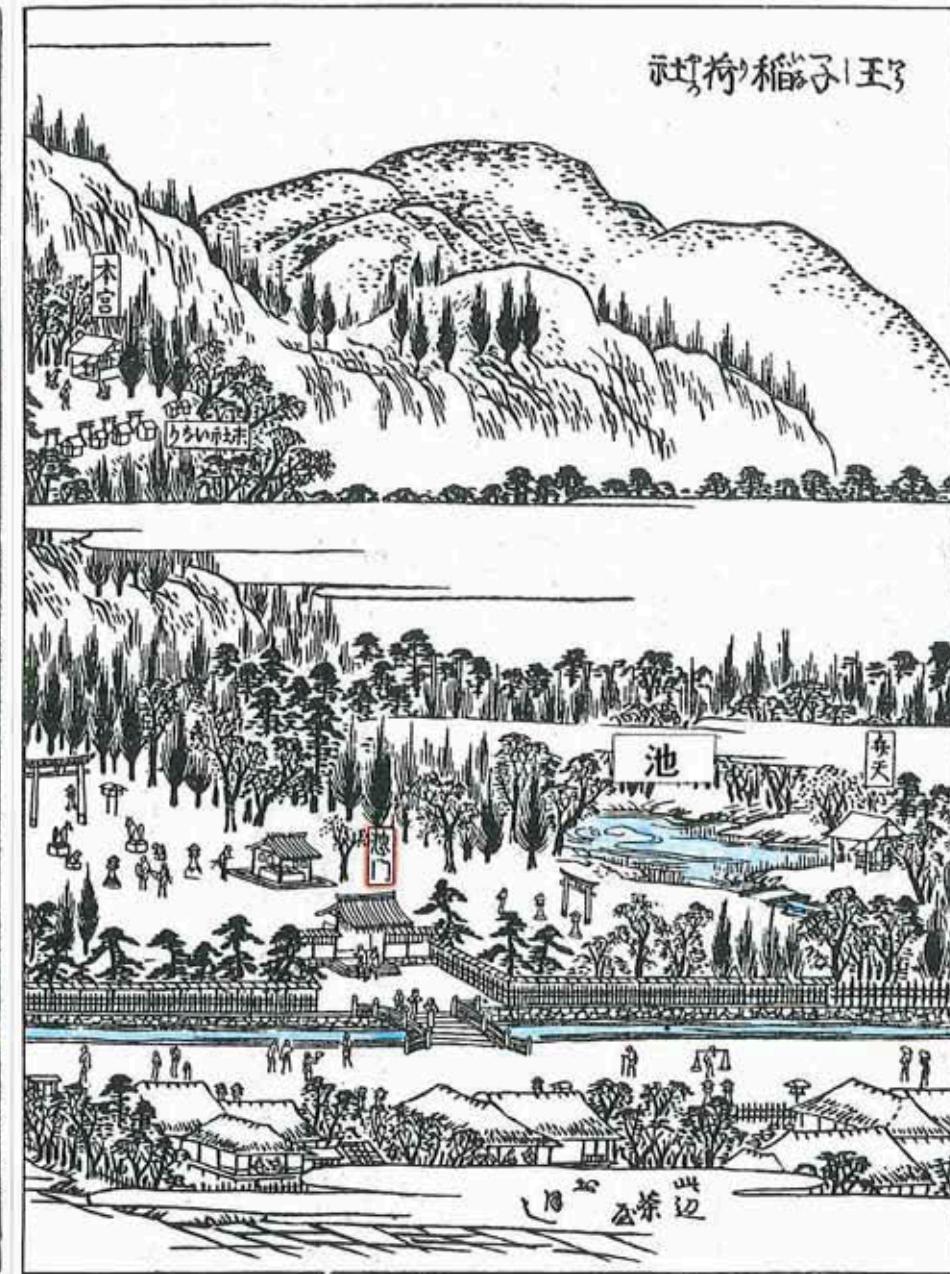
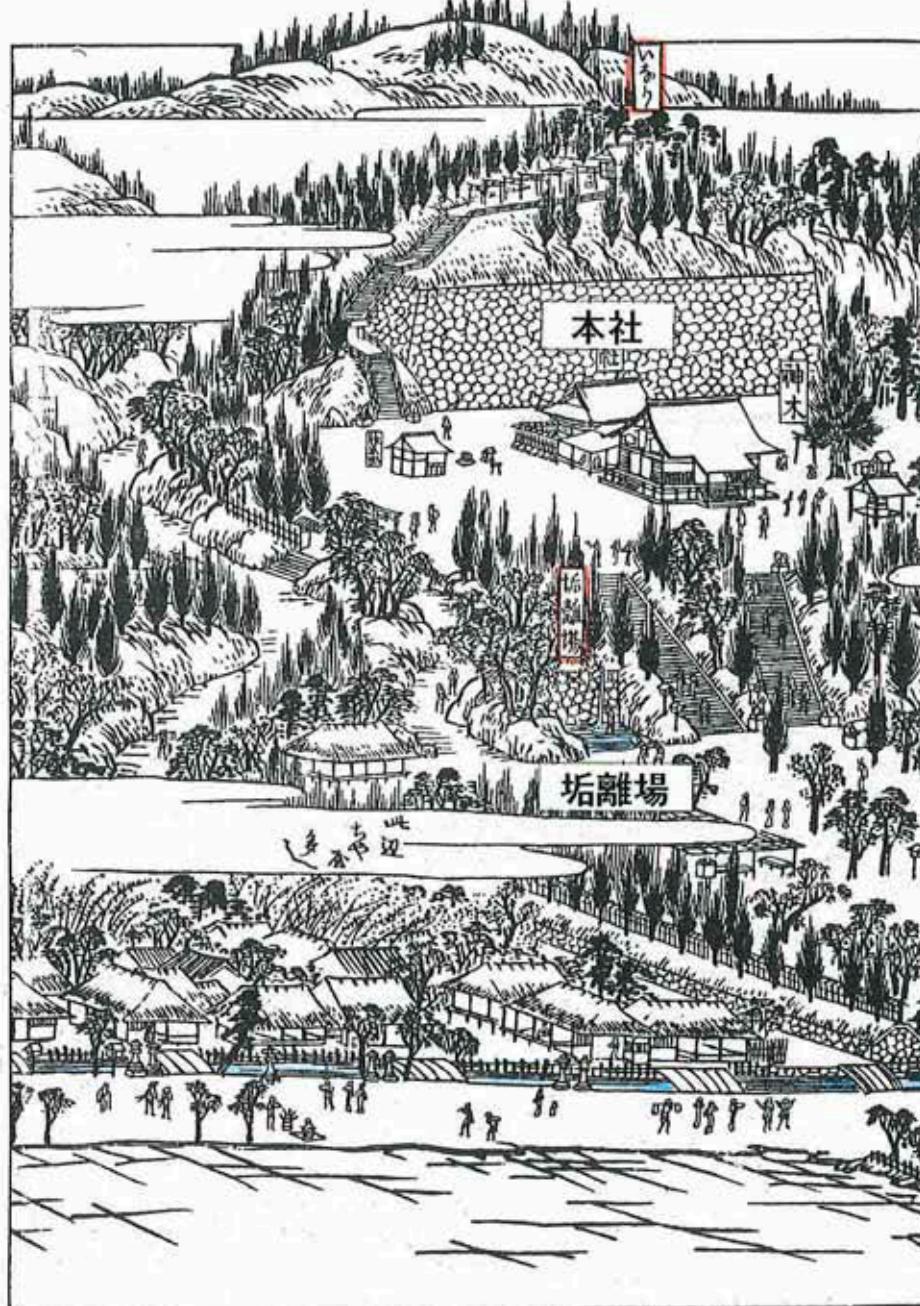
文化座が3月1~7日、東京・北とぴあ・つづじホールで、新作『王子の狐 かぎをくはえて』(瀬戸口郁脚本、西川信広演出)を上演する。劇団代表の佐々木愛が企画の発案者で、主役のおせんを演じる。



# 王子稻荷社

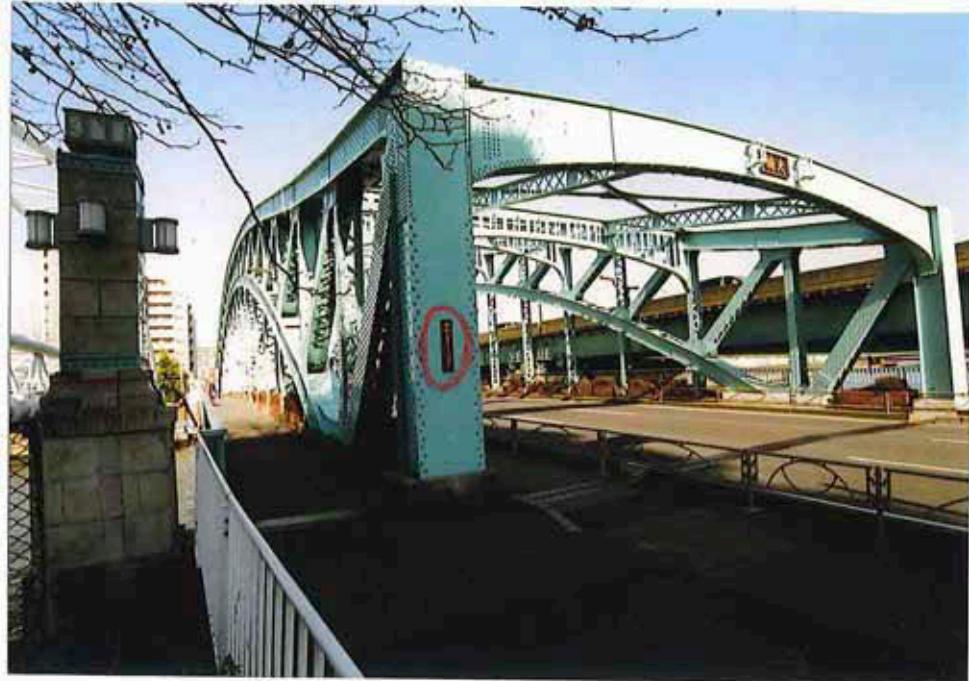
元の名は地名の「岸稻荷」とい、鎌倉時代後期に豊島氏により今の名に改称された。創建年代は不祥だが源頼義が前九年の合戦（1051）の際参拝したと由緒記にはある。

王子稻荷社  
旗亭・貲食舗、或は丘に對し、或は水に臨んで軒端をつらねたり。實に此地の繁花は都下にゆづらず。



「隅田川に架けられた最初の橋で日本橋より古い」

荒川区南千住→足立区千住橋戸町

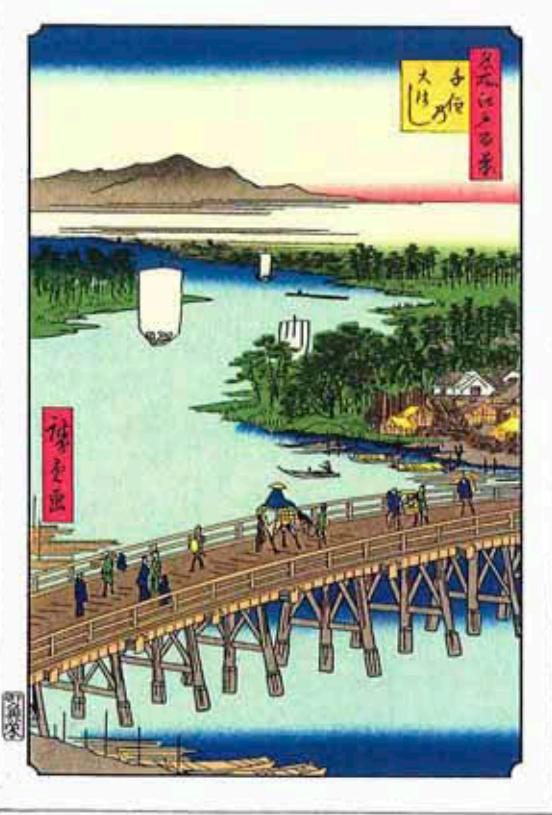


現在の橋は大正の震災で焼失後、昭和2年（1927）に架けられた鉄橋で93年たつ。長さ92m・幅24mある。



大正8年の頃の写真。まだ木の橋だった。

『新選東京名所圖會』



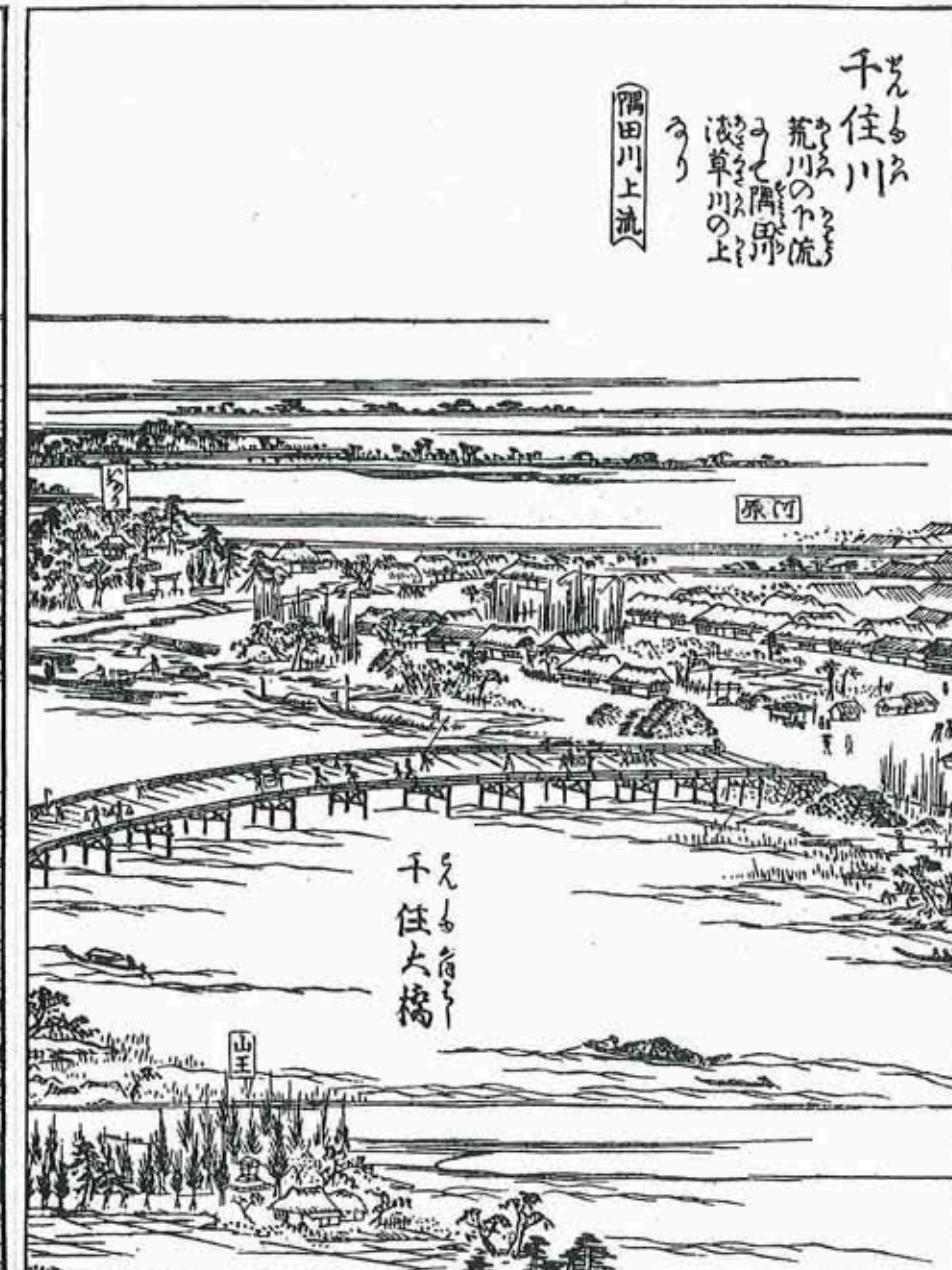
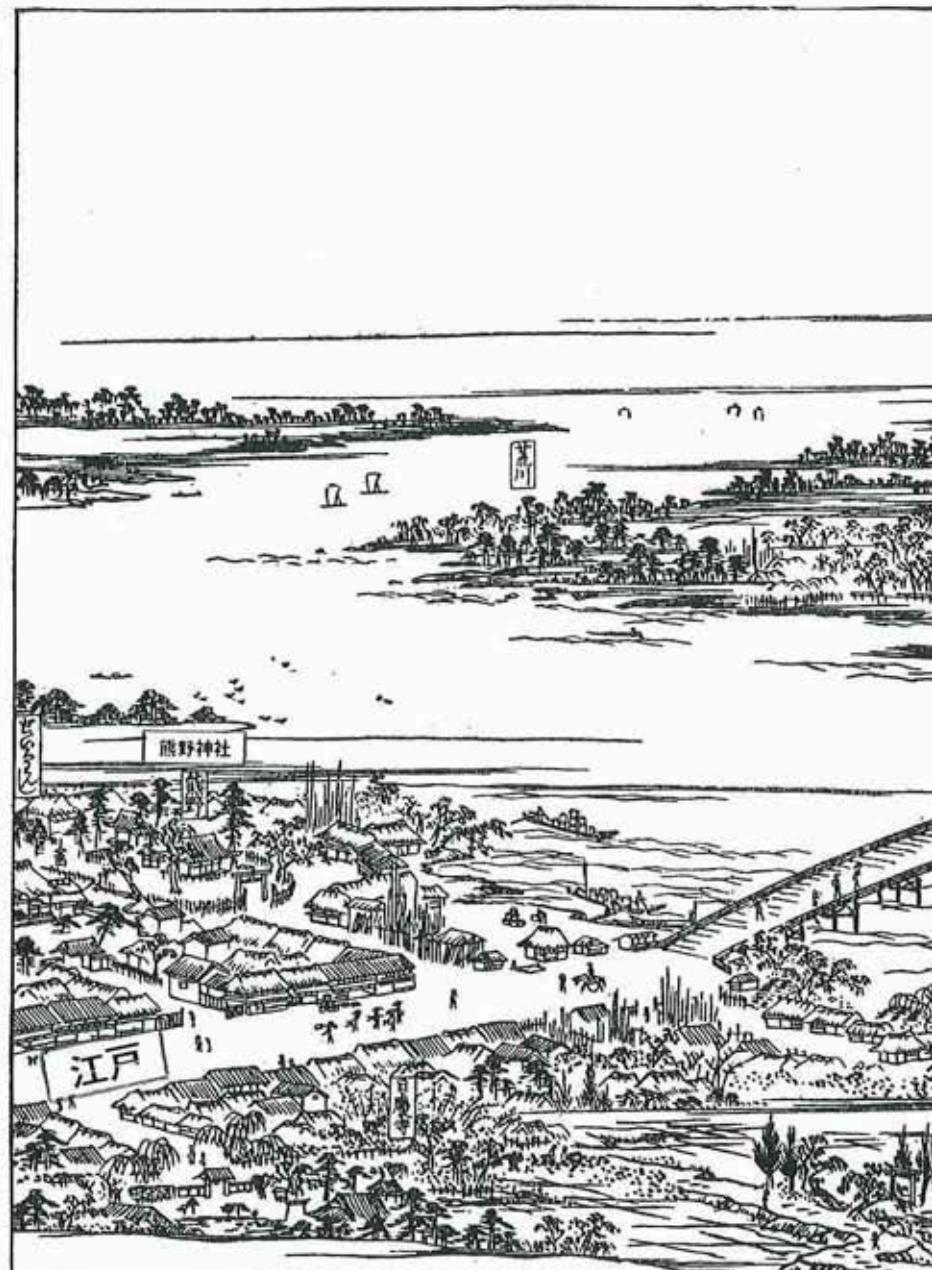
日光・奥州街道の江戸の北の出入口



# 千住大橋

日本橋より古く家康が江戸に入った直後の文禄3年（1594）架けられた。当初は200m程上流にあった。

千住大橋  
荒川の流に架す。奥州街道の咽喉なり。橋上の人馬は絡繹として間断なし。橋の北一二町を  
経て驛舍あり。此橋は其始文禄三年甲午九月伊奈備前守奉行として普請ありしより、今に連綿たり。

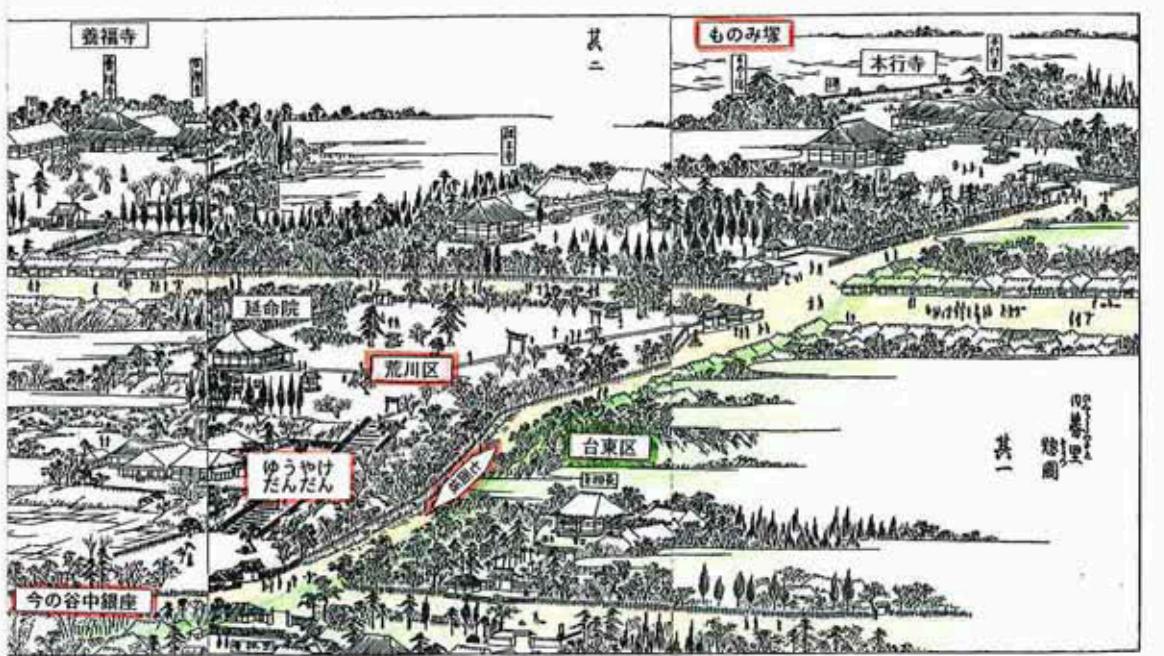


# 日暮里

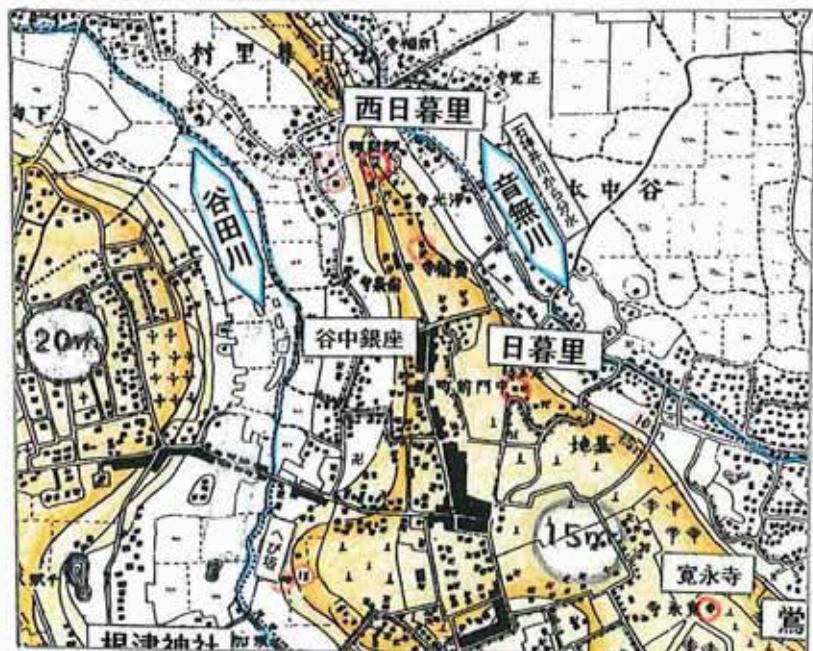
荒川区西日暮里 三～四丁目

(ひぐらしのさと)

||高台で眺めがよく日が暮れるまでいてもあきないのでこう呼ばれた||



「ゆうやけだんだん」は  
— 七面坂が区の境  
延命寺の境内にあった。



明治前期の周辺の地形図



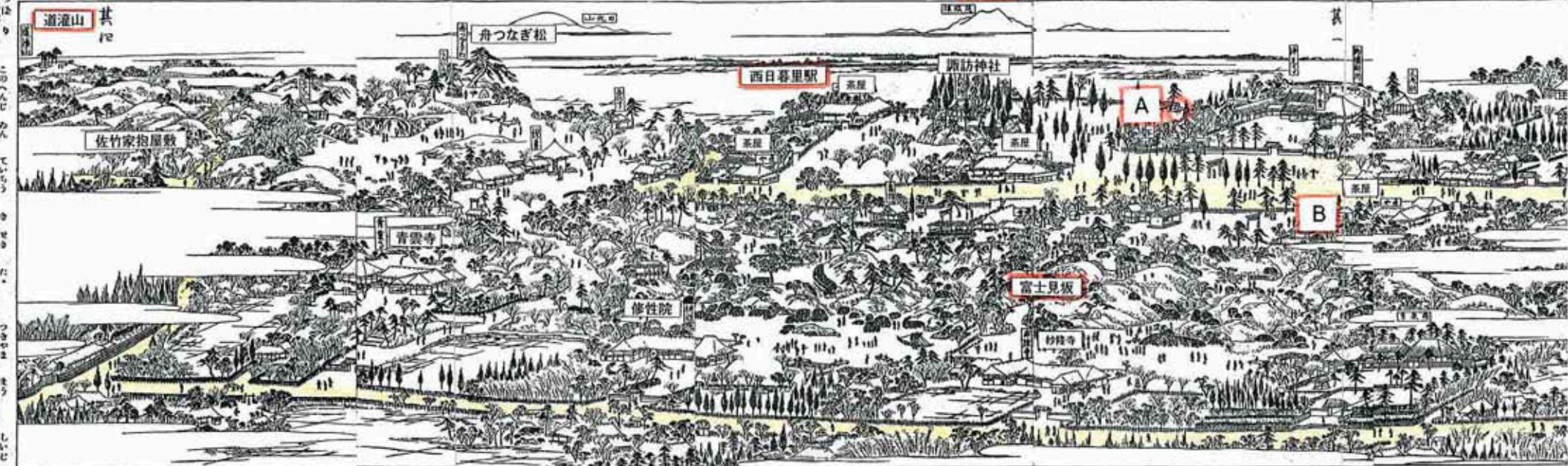
夕やけだんだんのある坂。この先が日暮里駅。



赤線が絵の範囲。

一日いても飽きないので江戸中期の頃から「ひぐらしの里」と呼ばれていて、その前は新堀といった。台地の景勝地で行楽地となり賑わった。明治10年に今の名になり、同38年日暮里駅が出来た。

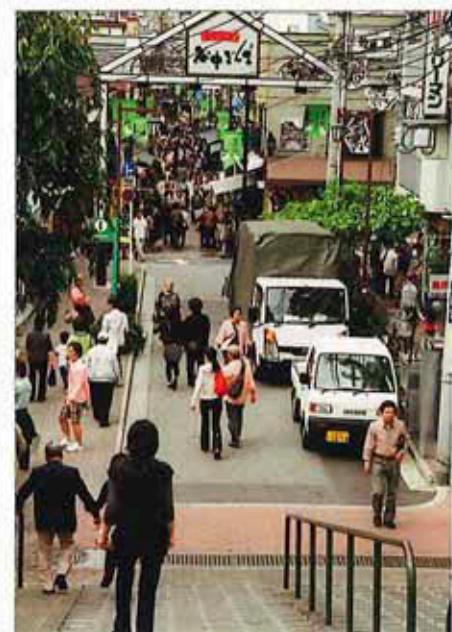
## 日暮里全図



諏訪神社からの眺めで昔はここから筑波山が見えた。



国土交通省の「関東の富士見百景」に選ばれていたがビルが建つてしまい見えなくなってしまった。



谷中銀座の賑わい。

〔古代の東海道が通り、頼朝もここを越えて鎌倉に入った交通の要所〕



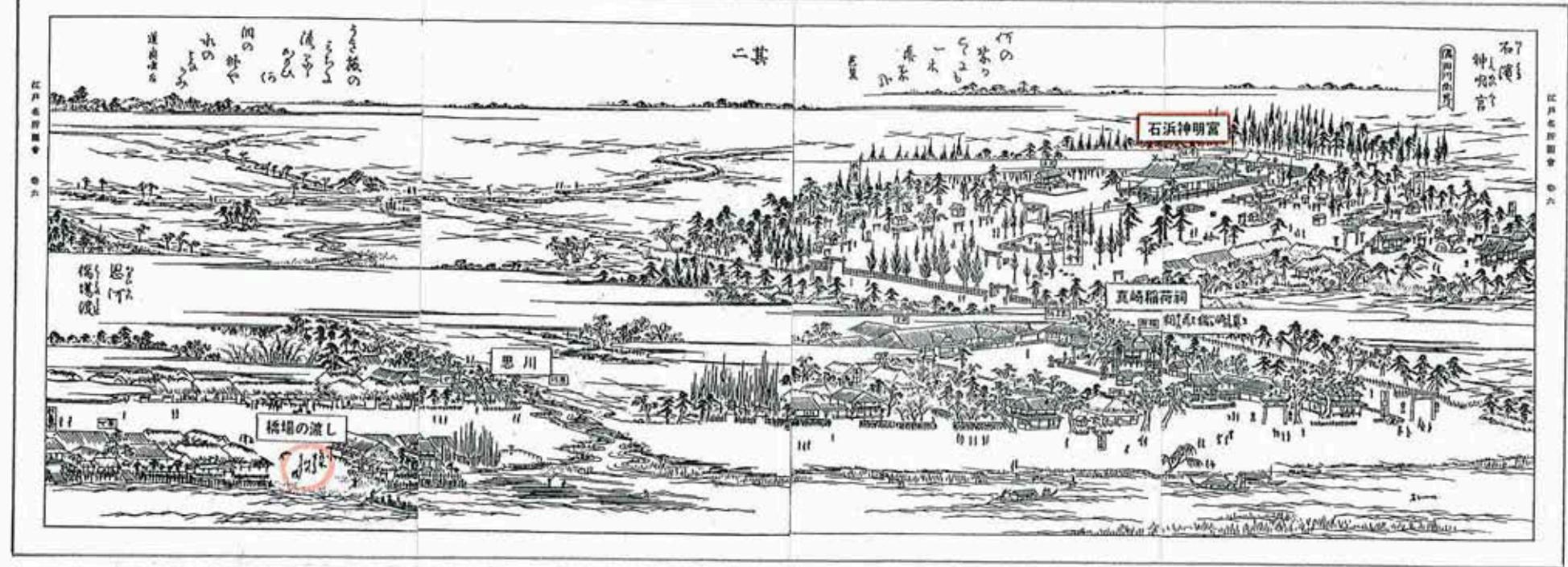
白鬚橋から渡し場のあつた下流を見る。  
右側の木杭の跡は何か。



『伊勢物語』の主人公の在原業平が舟で渡っている。



**隅田河渡** 橋場より須田堤のもとへの古き渡なり。今は橋場の渡と唱ふ。



「この所すみだ河のわたし場」とある



古代の官道の東海道がここを通っていた。豊島駅から下総の国府へ向かっている。



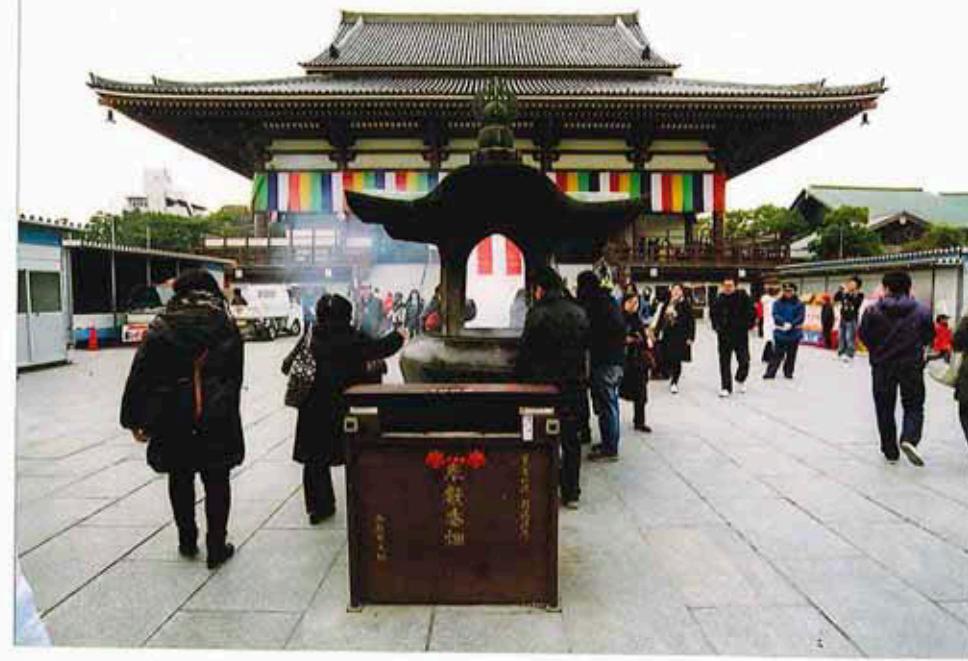
治承4年（1180）10月2日、伊豆で挙兵した  
頼朝は3万の軍勢を連れてここを渡り鎌倉に向かっ  
た。江戸重長らが舟で「浮橋」を組んで渡らせた。

# 77 《足立区》

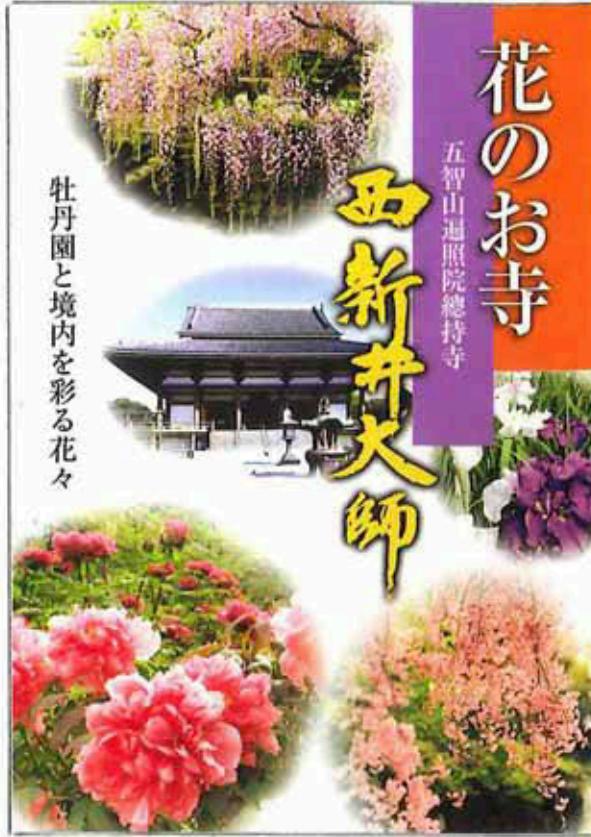
五智山 総持寺（西新井大師）

足立区西新井 一の十五の一

川崎大師とともに開運・厄除けの大師



西新井の厄除け大師として知られている。本堂は昭和47年に再建された。真言宗。



寺のパンフレット

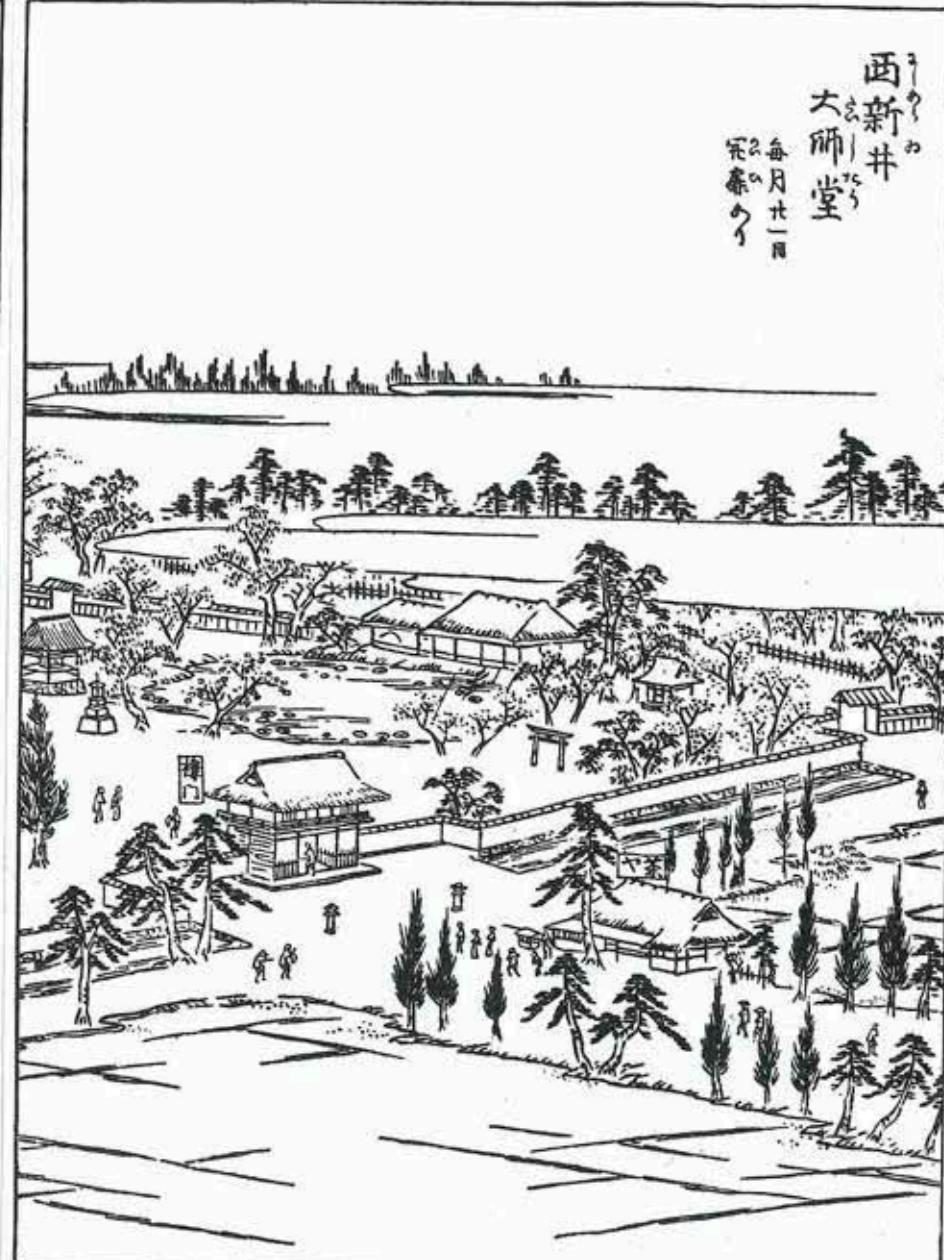
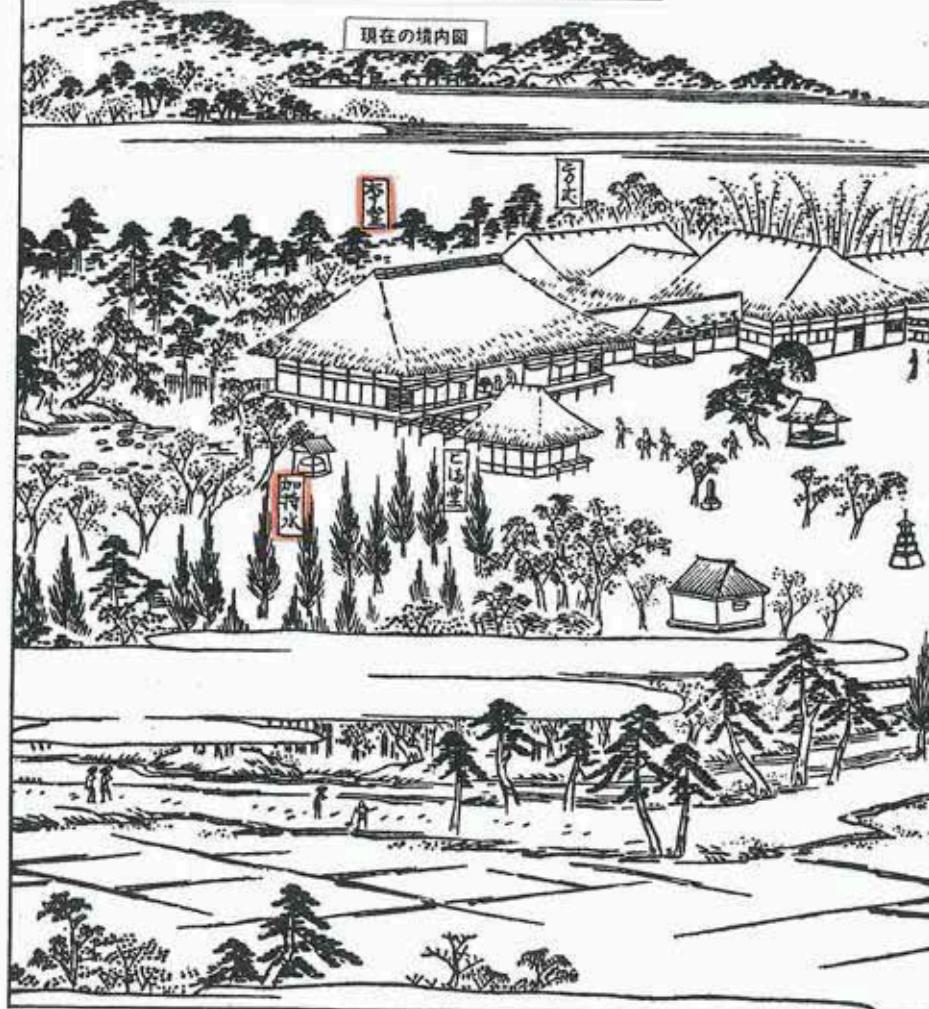


「加治」とは、仏が不思議な力で民衆を守ること。梵語。新井の地名の元の井戸。

阿伽井 本堂の左の傍にあり。則弘法大師の加持水なり。洗目服薬に用ふるに其應驗あり。此井に依りて地名を西新井と稱すといへり。

# 西新井大師堂

平安時代初期の天長3年（826）弘法大師の創建。



五智山總持寺 西新井村にあり。真言宗にして、遍照院と號す。弘法大師の草創にして、本尊弘法大師の靈像も同作なり。靈驗著く、毎月二十一日には開帳ありて、參詣頗おほし。

# 78 板橋駅（宿）

板橋区仲宿・本町の旧中山道

江戸四宿の一つで中山道の出入口



絵の料亭の位置にあつただんご屋。今は無い。



地名の元になった橋で現在の橋は昭和47年コンクリートで造られ木の様な感じの色で塗装されている。絵の方向から見る。



日本橋から二里三十五町三十三間（約11.8 km）とある。

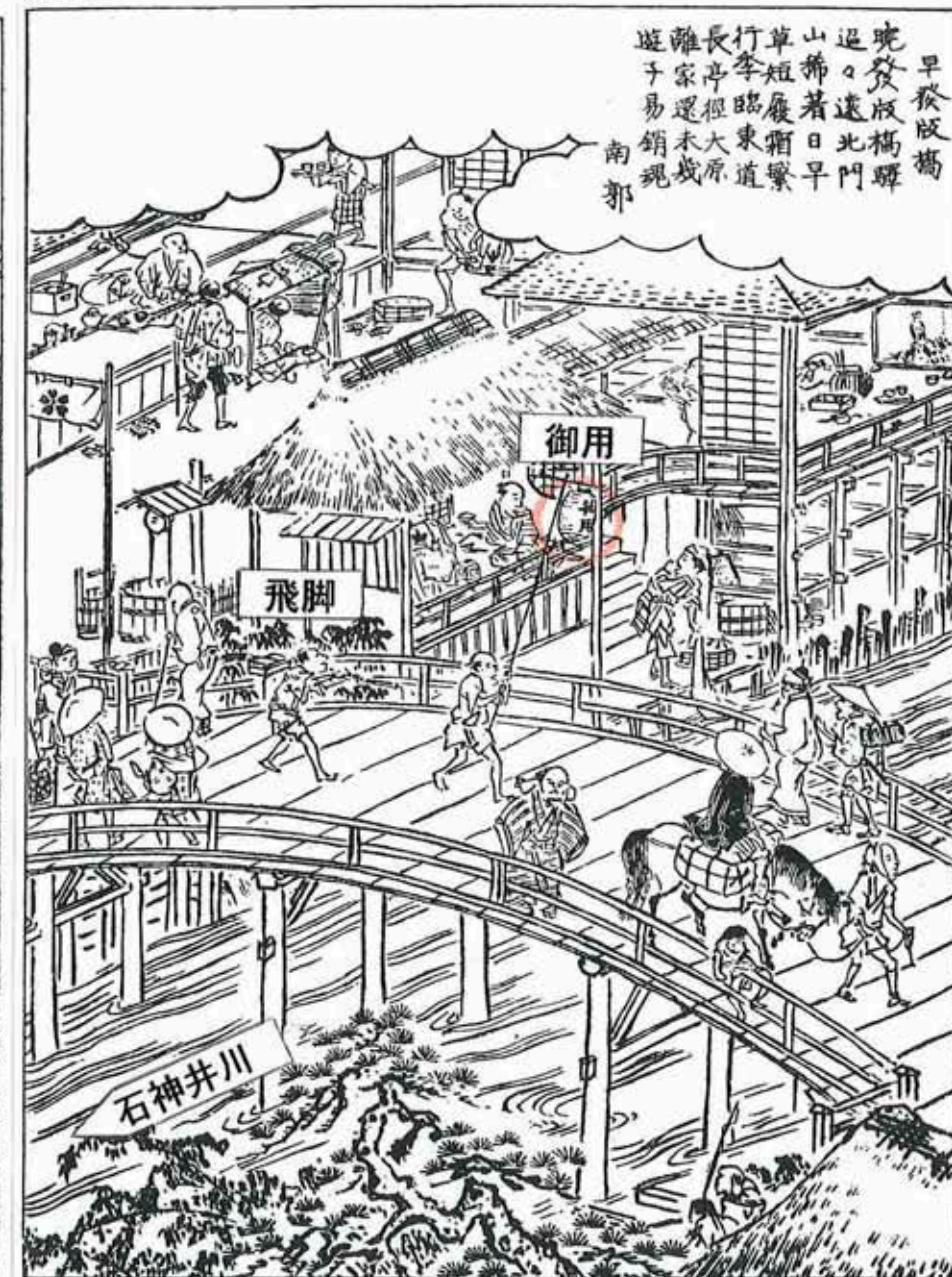


宿の東側には22万坪もある加賀藩の下屋敷があった。

# 板橋駅

(宿)

天保14年(1843)の頃、宿内人口2448人・家の総数  
572軒・本陣1・脇本陣2・旅籠54軒あり、宿の長さ1.7  
kmで道幅は4間(7.2m)上宿・仲宿・平尾宿があった。

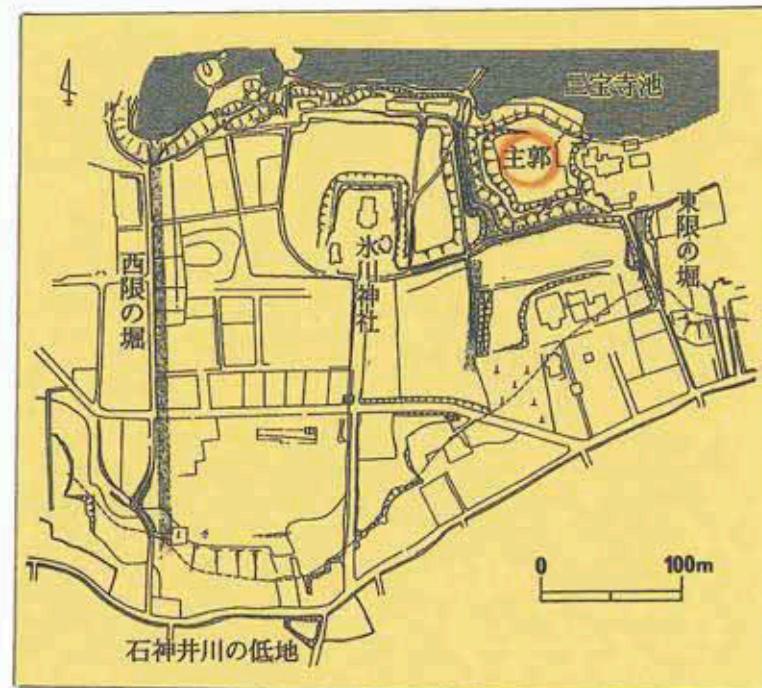


## 練馬区石神井城址 練馬区石神井台一の十八

II 石神井川流域を領した豊島氏の城 II



本丸の跡を池側から見る。



『石神井城跡発掘調査の記録』 平成16年



石神井城の主郭跡：豊島氏が築いた中世の城で、鎌倉時代以前には築城されていた。湧水地の石神井池を利用して築かれた。

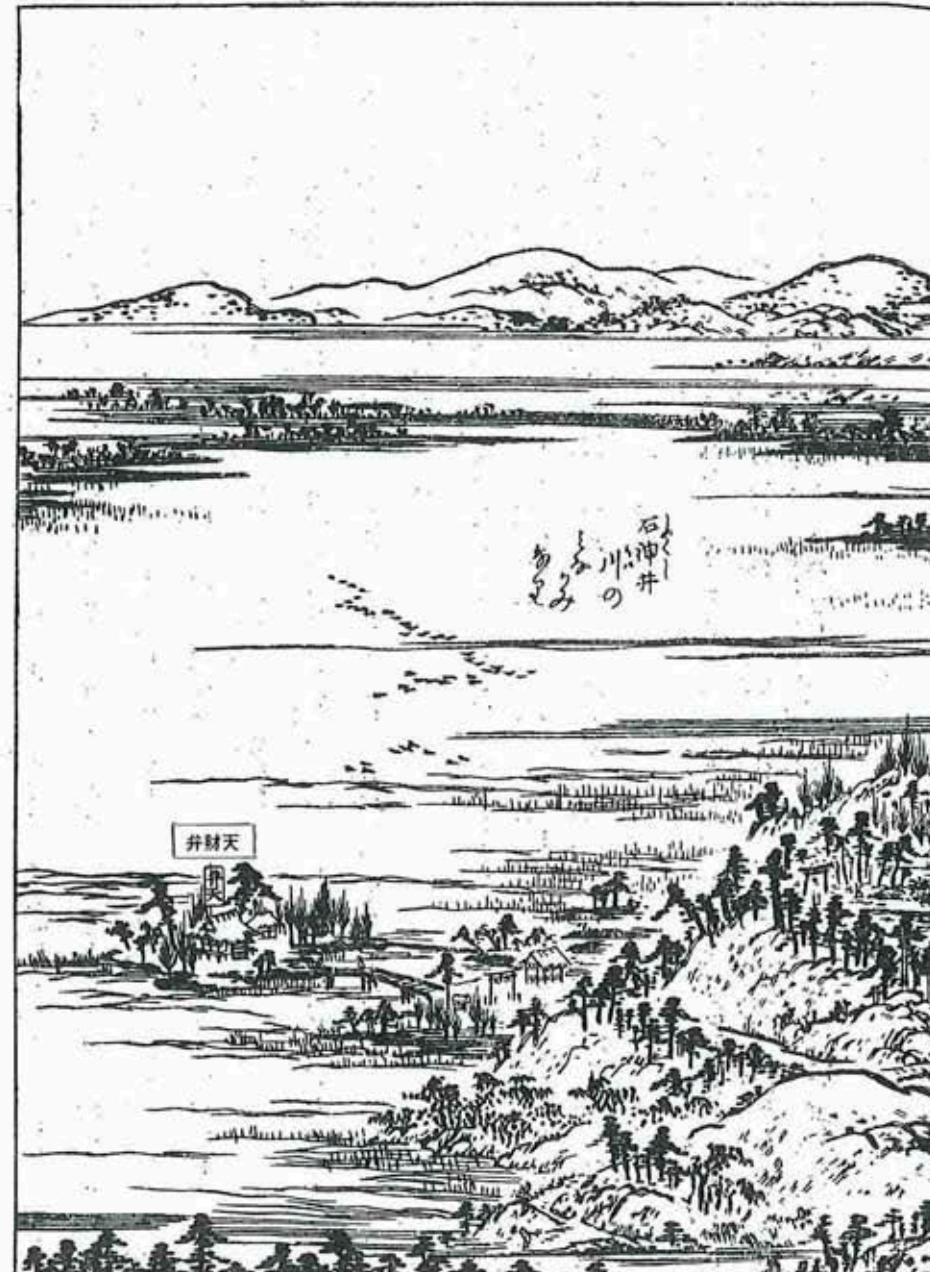


『『石神井公園 歴史・自然マップ』

石神井の語源は石の神の信仰という。

## 石神井城址

城を築いた豊島氏は、坂東八平氏の秩父氏の流れで豊島武常を祖とする一族で平安時代末期の頃から豊島郡を領した。室町時代末期の文明9年（1499）太田道灌によって滅ぼされた。



石神井城址  
三寶寺の池の傍にあり。其地北に池水を帶びたり。大手と稱する邊を水田にして、左右に空堀の形今猶存せり。  
文明中、豊島氏此城に住むといへり。  
文明九年四月十八日、太田道灌の爲に攻め落されしより、廢城となりしなるべし。



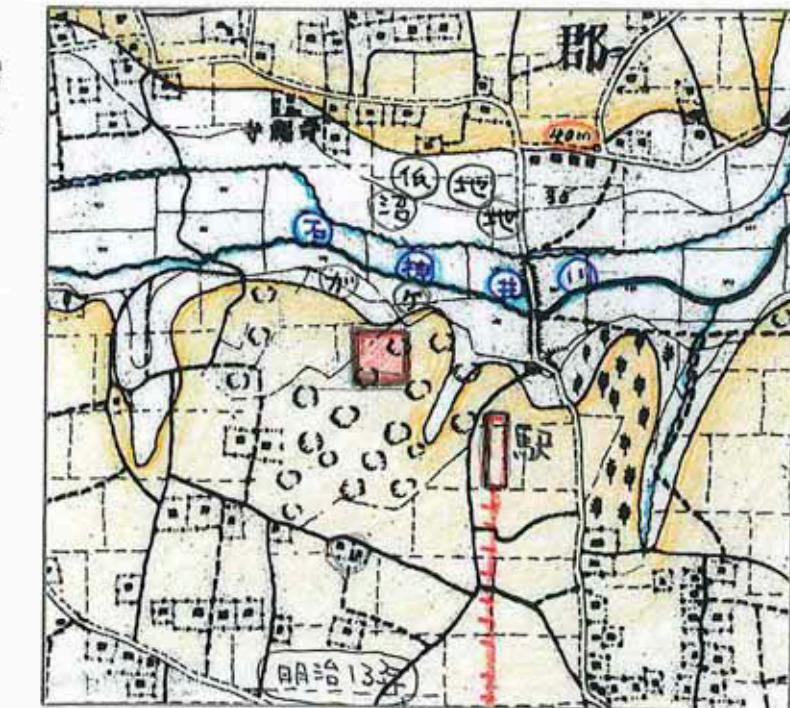
平塚城・石神井城と並ぶ豊島一族の城

絵はない

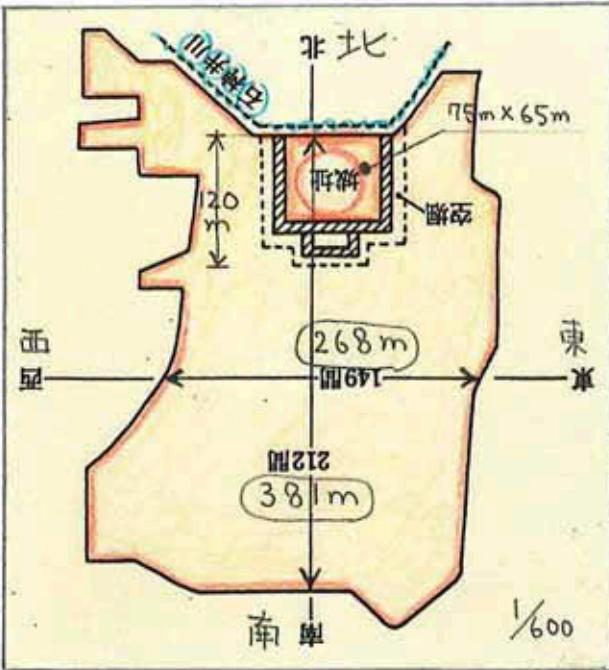


本丸跡は北側の石神井川沿いの一部だけに残されている。

## 練馬城



明治前期の周辺の地形図



練馬城の広さ 『日本城郭大系』

94年もの長い歴史に幕を閉じた

## としまえん 歴史に幕

1世紀近い歴史を誇る遊園地「としまえん」(東京都練馬区)は31日夜、最後の営業を終えて閉園した。この日も午前9時の開園を前に大勢がチケット売り場に列をなした。とりわけ人気を集めたのは、ドイツで1907年に製造され、世界最古級とされる回転木馬「カルーセルエルドラド」。開園から長蛇の列ができ、夕方は待ち時間が2時間を超えた。

としまえんは26(大正15)年9月開園。ジェットコースターや大型プールが人気を博し、最盛期の92年度には年間の来園者数が390万人を超えた。2019年度は107万人だった。跡地には人気映画「ハリー・ポッター」のテーマパークが23年前半にオープンするほか、一部は防災機能を持つ都立練馬城址公園として整備される。

【井川諒太郎】

## 練馬城の範囲

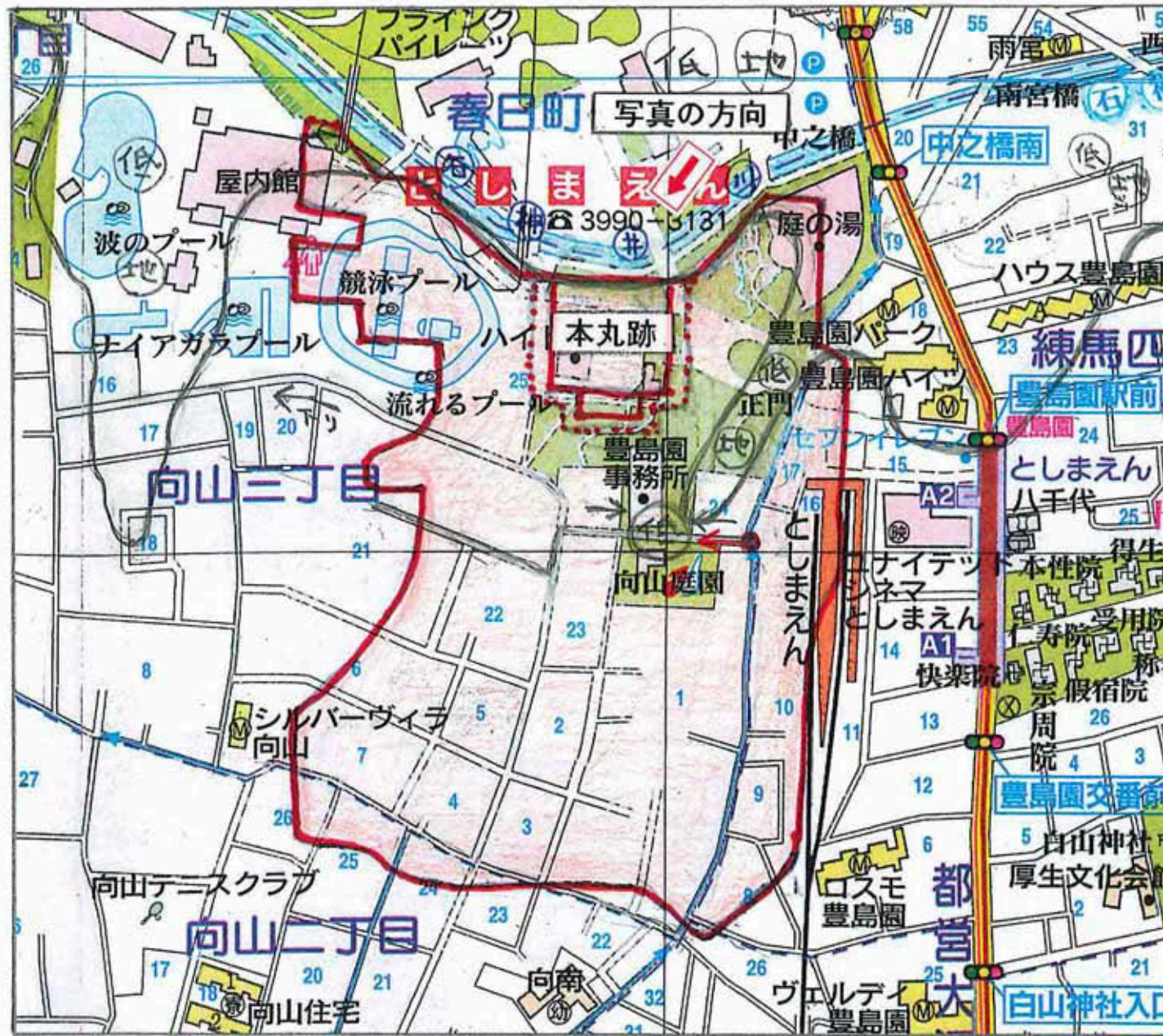
鎌倉時代末期の元弘年間（1331～1334）には豊島景村によって築城されていた。文明9年（1477）太田道灌に攻められ石神井城と共に落城した。この年応仁の乱も終わった。

練馬城趾

上練馬村愛染院の側にあり。

豊島氏某が居城の地なと

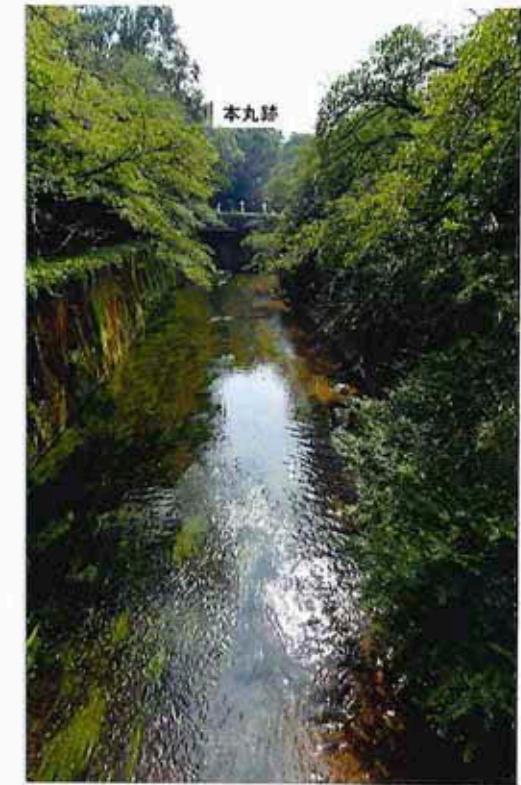
しといひ傳ふ。



豊島園は大正15年の開園と古く、東京都は閉園のあとここを買収し「練馬城跡公園」として整備し、防災の非難所としても活用する予定にしている。

東京23区地図

東京地図出版



庭の湯の裏を流れる石神井川。



正面入口 令和2年8月15日撮影

## 81 立石

葛飾区立石 八の三十七の十七

||古代の東海道の目印となつた石で地名の元の石||



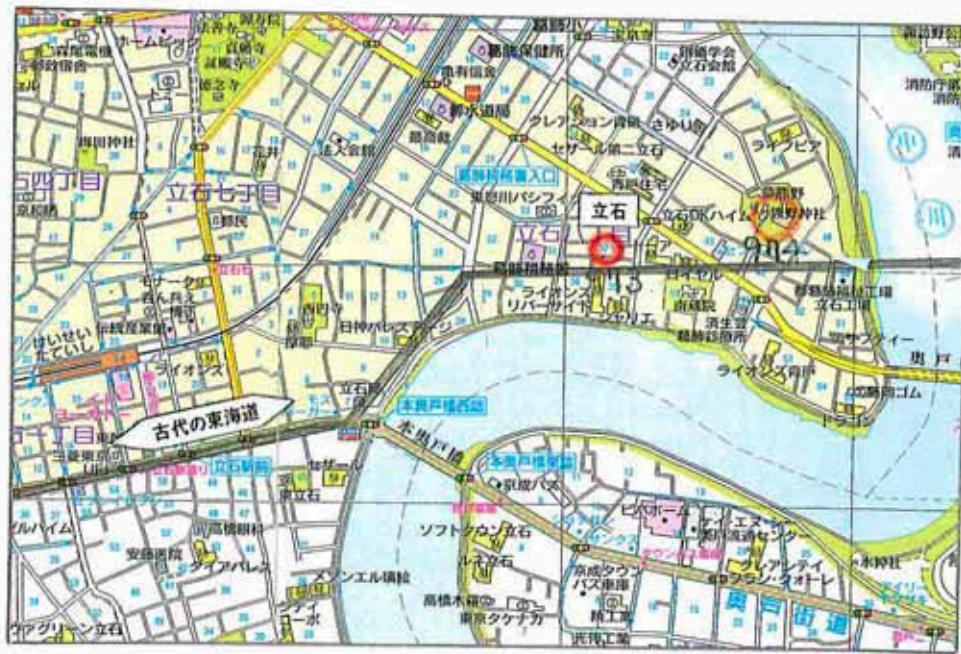
児童公園の中にあり鳥居と説明板がある。



明治前期の迅速図



江戸の頃は絵の様に60cm程地表に出ていたが今はほとん  
出でていない。地下に埋まっている部分は数mもあるという。



地名の元になった石。古墳時代に千葉県の鋸山から運ばれてきた石室を造る石材で「活蘇石」という。

立石  
立石村五方山南藏院といへる真言宗の寺境にあり。地上へ顯れたる所纔に一尺ばかりなり。土人相傳へて、石根地中に入る事其際をしらすといへり。



江戸名所圖會 卷七



古代の東海道のルートで立石は「豊島駅」と「井上駅」の間にあり、駅の間の距離は12.4kmある。

『古代の道』

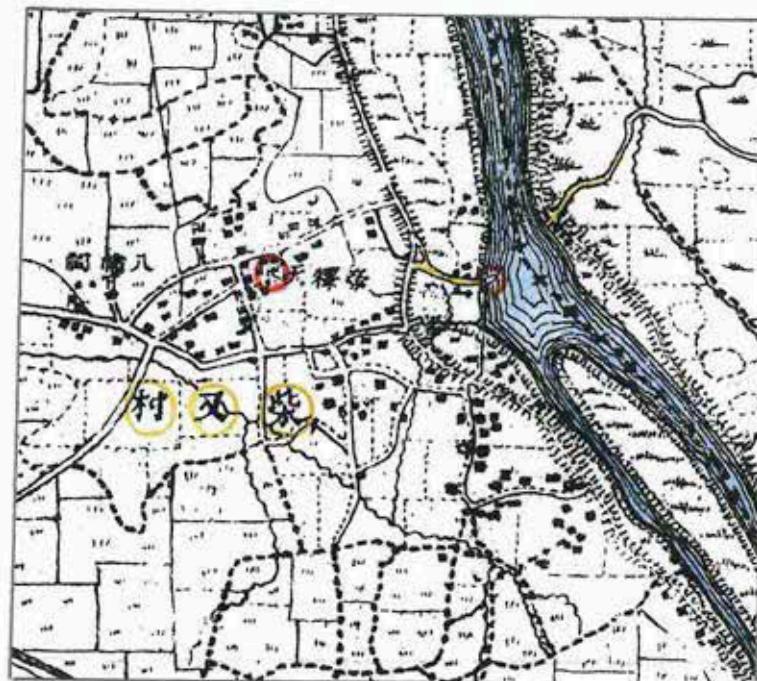


古代の東海道の直線道路が残っている道が今もある。

II 絵はない。当時は絵にする程の寺ではなかったのかも知れない II



帝釈天の表参道の「亀家本舗」



明治前期の柴又村。大正9年の人口は920人だった。柴又是古くは「島俣」といい川の流れの分岐点のことが地名の元になった。



京成金町線の柴又駅



帝釋天王

柴又村

經榮山題經寺

に安置す。

江戸より二里半。

當寺は寛永年間の草創なり。



正式名は經榮山題經寺という日蓮宗の寺。  
寛永6年（1629）の創建。



近くにある都内に残る唯一の矢切の渡し。川向うの南側には下総国府がある。



寅さんで有名な草だんごの「とらや」



本堂には木彫りの彫刻が残っている。

II 豊かな水源に恵まれて いる古刹 II



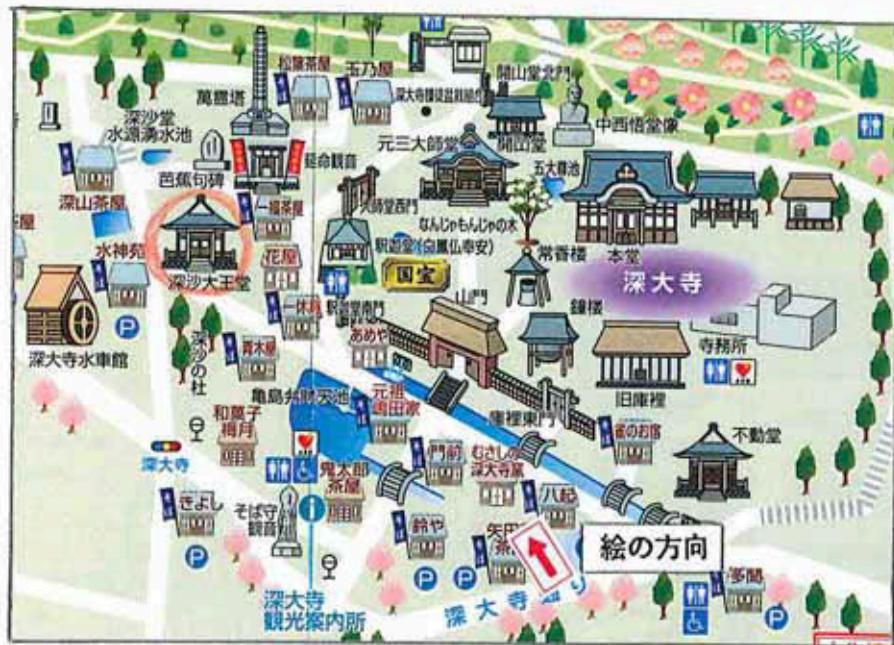
この「深沙大王」堂が創建の元。今の堂は昭和43年再建されたもの。



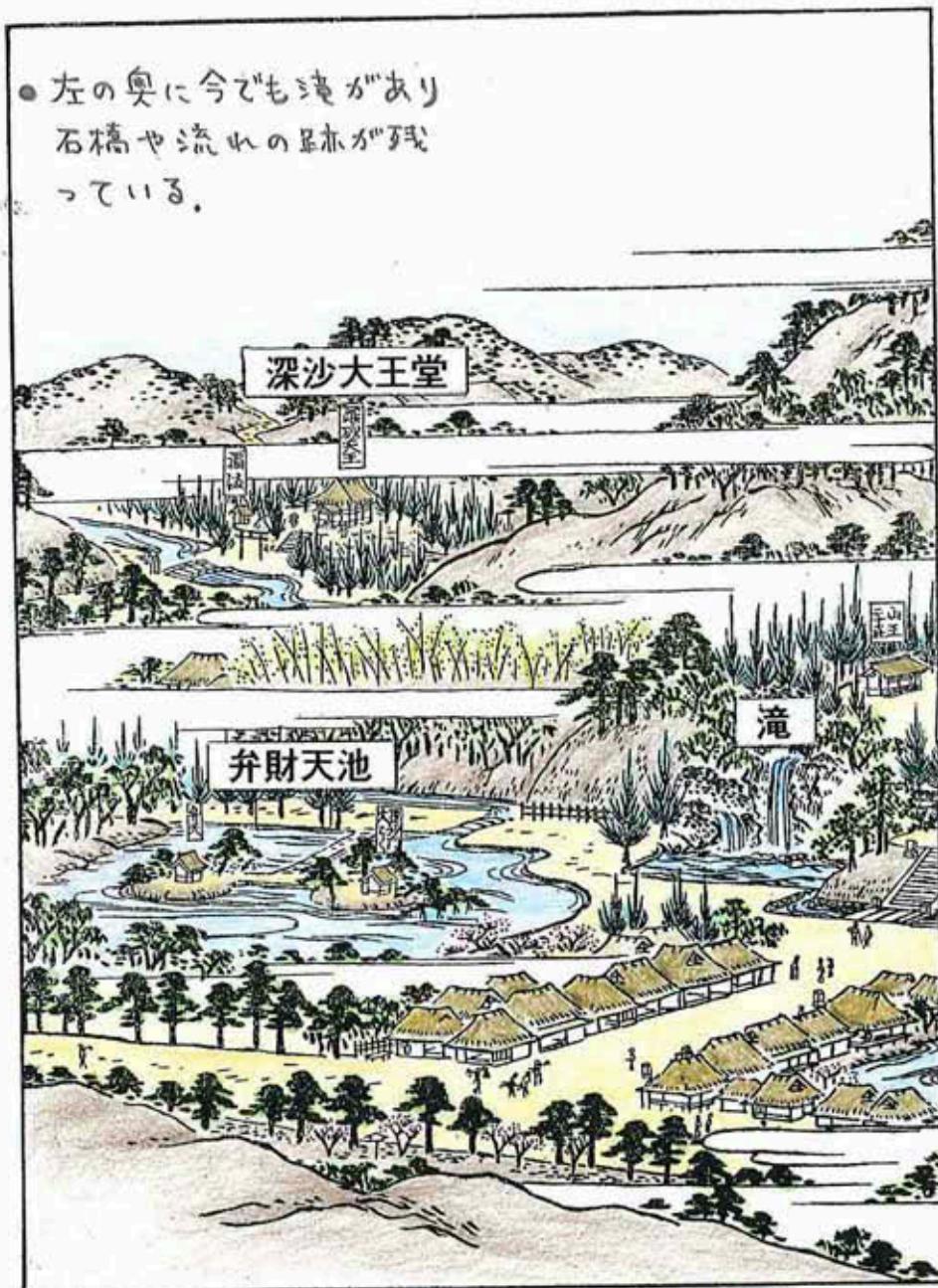
山門前の湧水の水路の流れ。



深大寺城の本丸跡。

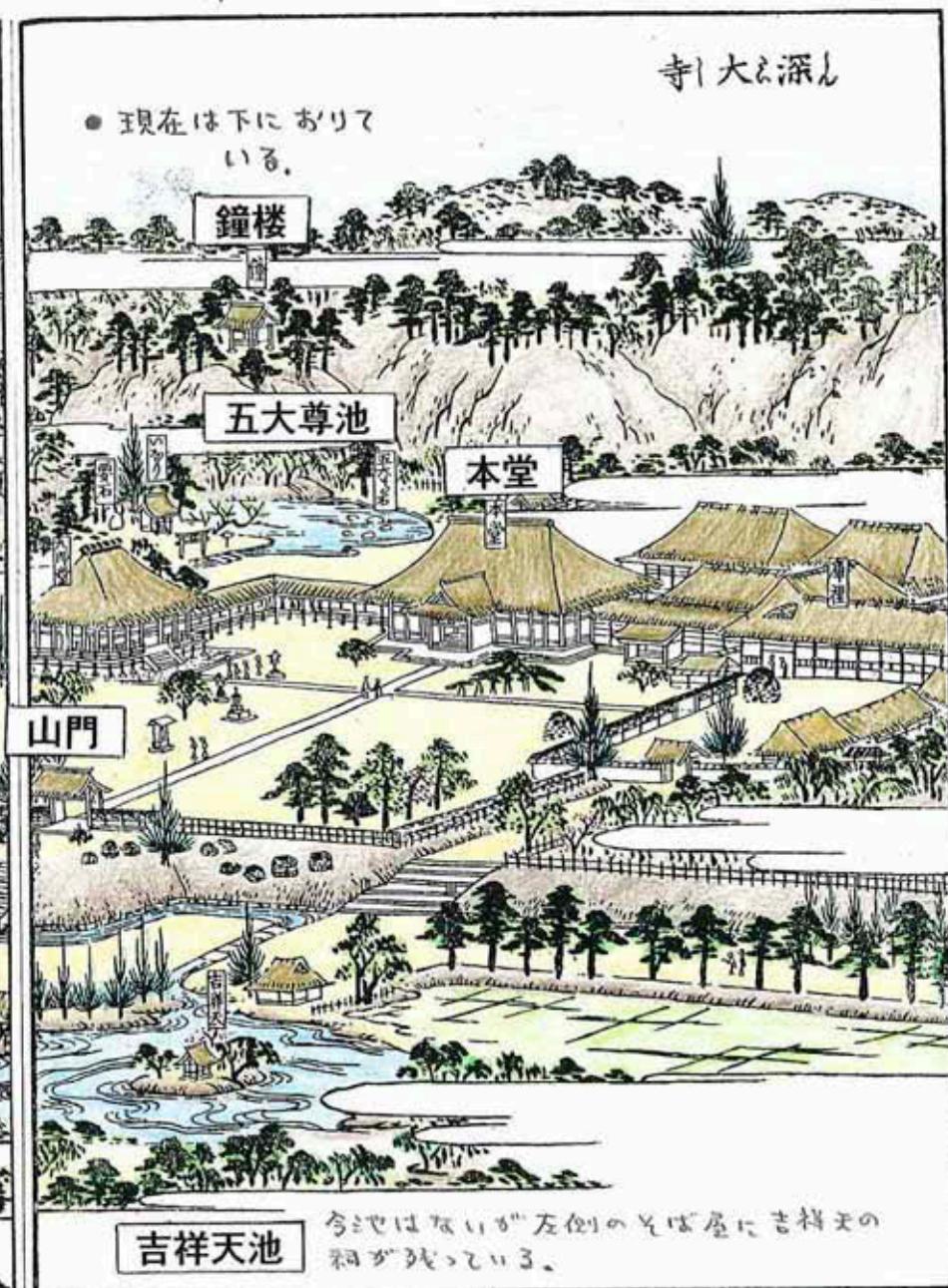


「調布市観光マップ」



● 滝は東京の名湧水5ヶ所  
の一つ。

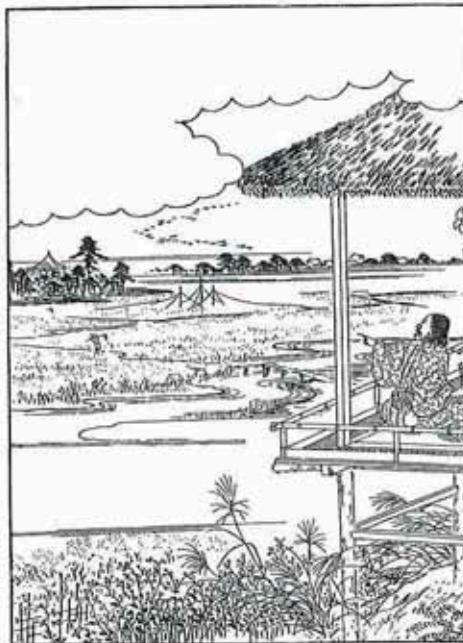
● 慶応元年(1865)焼失



● 本堂は大正時代に再建された。

● 山門が残る。  
元禄8年(1695)

江戸名所図会 深大寺蕎麦  
深大寺蕎麦は當寺の名産とす。是を産する地、裏門の前、少し高き畠にして、縦に八反一畝程のよし、都下に稱して佳品とす。然れども眞とするもの甚少し。今近隣の村里より産するもの、おしなべて此名を冠らしむるといへども佳ならず。



### 深大寺蕎麦の絵

季節は秋。

- 見晴らしのよい座敷で住職と町人がそばを出されててもてなされていいる。

右下では稚児と小僧がそばを運んでいる。

江戸名所図会に描かれた「深大寺蕎麦」を实物で再現する試みが14日、調布市の深大寺であった。張堂元俊住職が図会に登場する住職とよく似ていることから、そば研究家のほしひかるさんが提案、門前でそば屋を営む浅田一穂さんも企画に乗り、実現した。図会は江戸後期の絵師、長谷川雪旦が描いたもので1830年代に刊行。住職が深大寺の茶室で、大盛りのそばを漆塗りの椀に小分けするなどして客2人をもてなす様子が

### 住職がそっくりだから 江戸名所図会の深大寺蕎麦再現

描かれている。そばちょこらしき食器が描かれているものの、食べるのに使われていないことから、3人は「ぶっかけそば」だったと推測。そばは深大寺近くで採れたもの、葉味のタイコン、煮物椀のゴボウなどに東京産を用い、漆椀や酒器などはテレビドラマの撮影用を借りて往時を再現した。張堂住職は「20年ほど前から再現したいと思っていた。夢がかなった」と喜んでいた。

【岡礼子】

なぜ深大寺のそばが有名になったのか……

- 元禄時代(1688~1704)の頃、上野寛永寺へそばを献上したこところ、大変風味がよく賞賛されたのがきっかけで広まったという。

又この土地の土質がそばを作るために適していたからともいう。

### 『江戸名所図会』の絵を再現した試み

平成25年11月15日 每日新聞の記事



④再現された江戸名所図会の「深大寺蕎麦」の場面。中央が張堂元俊住職。調布市の深大寺で江戸名所図会(評論社)に描かれた「深大寺蕎麦」

深大寺城跡 深大寺佛堂の後の方の山腰にして、其間六七町を隔てたり。空堀或は櫛門环ありしと覺し

き形 今猶嚴然たり。

難波田彈正城址

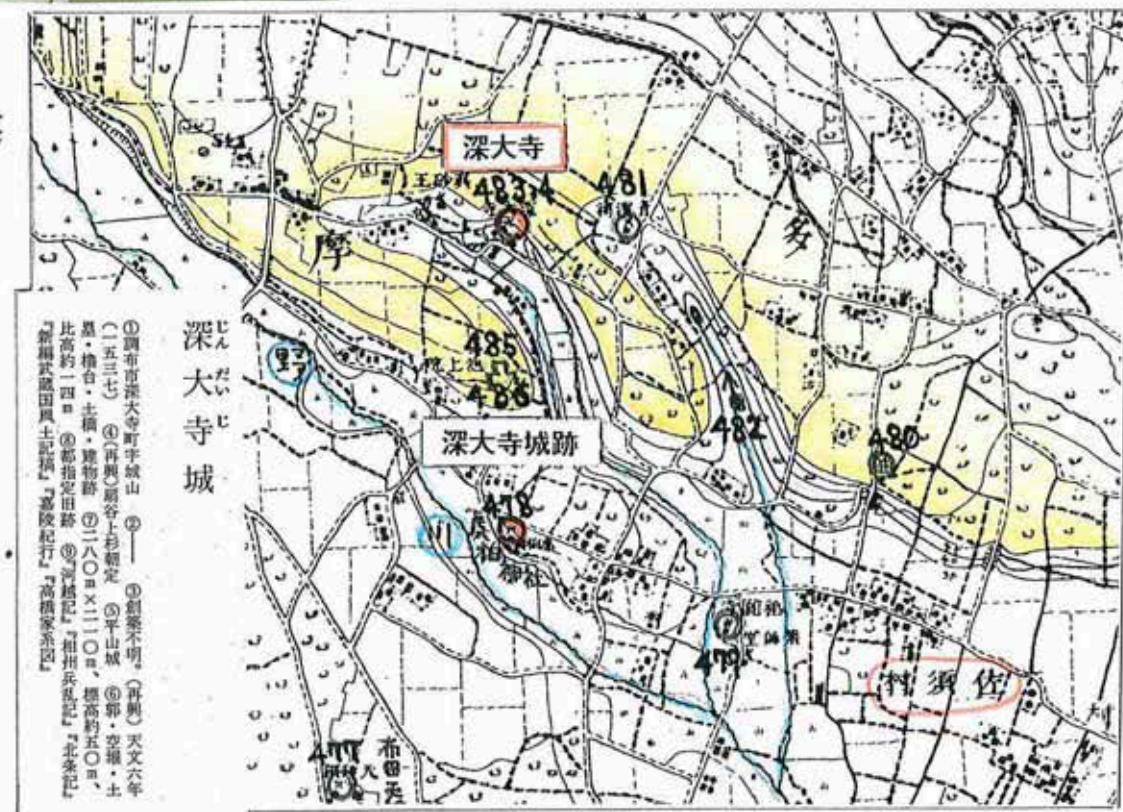
天文の頃、上杉朝定が重建。  
松山の城の出張として

こゝに城廓を構へたりしとなり。

深大寺城は

- ・戦国時代の天文6年(1537)扇谷上杉朝定が重建。  
家臣の難波田彈正広宗が居城した。
- ・同年北条の家臣で年少の高橋氏らに攻められたが戦いにならず、その後廢城となつた。

### 深大寺周辺の地形図



左は、蕎麦の「嶋田屋」

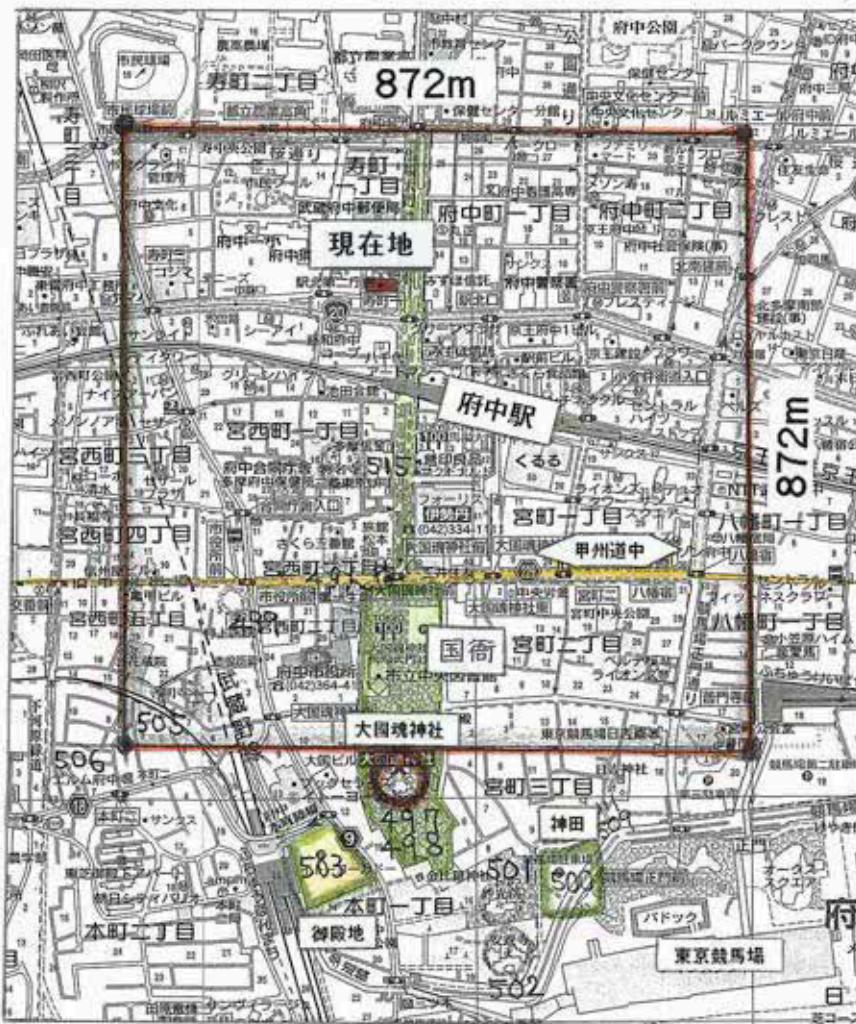
一番古い店で文久年間(1862頃)の創業

古代の語 ....

- ・ここは湧水地で“古くから人が住んでいた戸所”。佐須町には渡来人の人達が住み虎柏神社はその守り神。(柏)
- 「佐須」とは古代の朝鮮語で「火炎火田」という意味。ここはその中心地。

浮岳山深大寺  
昌樂院と號す。深大寺邑にあり。此所も佐須村と云ふ。昔は柏野里と號せしとなり。太古は法相宗なりしが、天台宗に改む。天平五年癸酉に草創する所の佛域なり。

## 国府の範囲



## 拝殿



創建: 12代景行天皇41年(111)5月5日

祭神: 大国主命

神主: 猿渡家…平安時代末期に足柄郡から移る。

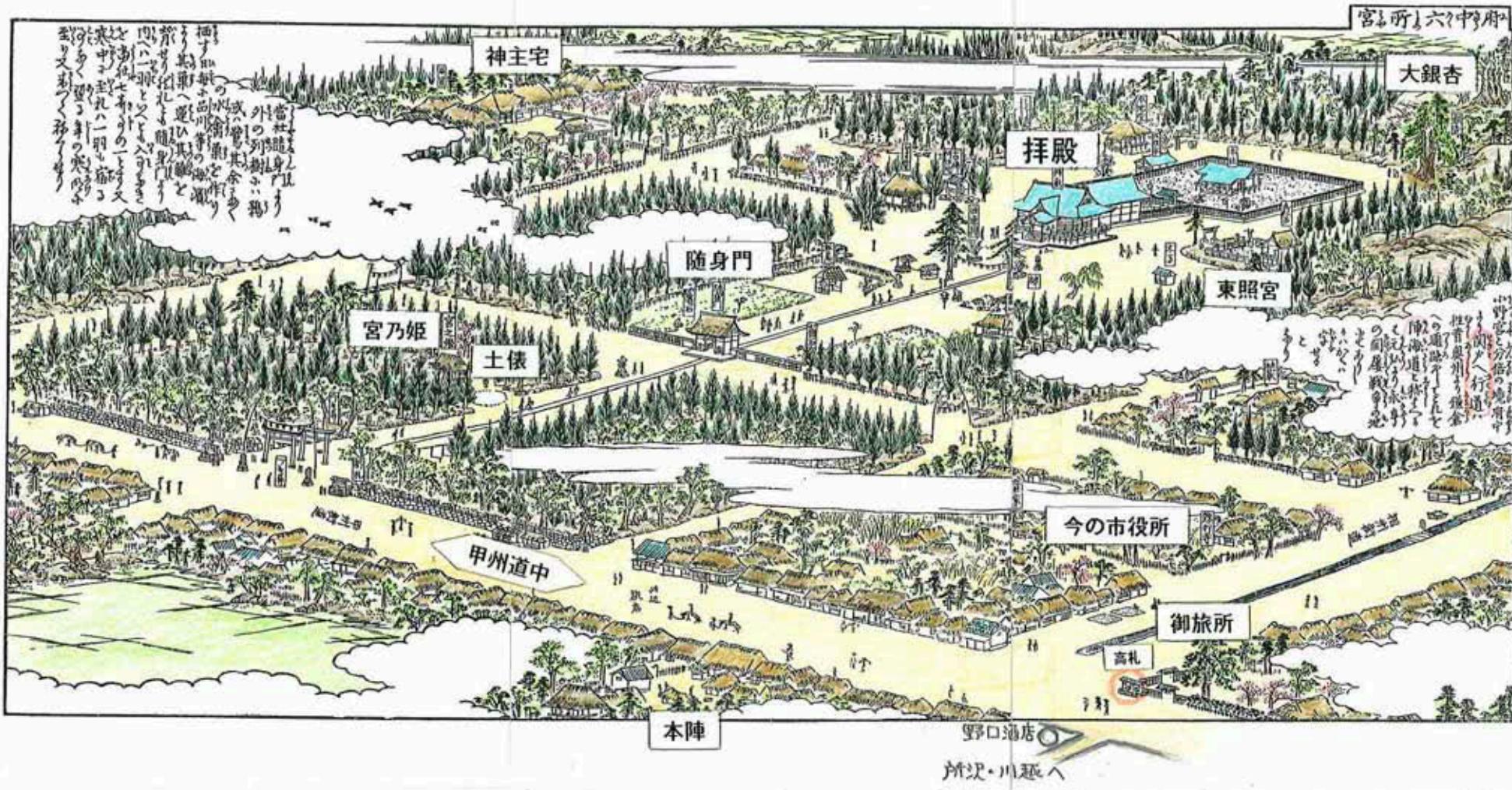
- 武藏国の6つの神社を祀るので六所宮と呼ばれていた。
- なぜ社殿が北を向いているのか……永承6年(1051)源頼義が奥州征伐の際、戦勝を祈願して南向きだった社殿を北に替えた。『源威集』
- 社殿は正保7年(1646)の火災で焼失、今の建物は寛文7年(1667)に再建されたもの。
- 明治4年今の大國魂神社の名になった。

◎ 国立歴史民俗博物館 研究報告 第10集  
「古代の国府の研究」

武藏国 の 国府

四等級の大國・上国・中国・下国 の内の 大國。  
広さ 872m四方。

## 大國魂神社（六所宮）



## 右上の文

鎌倉街道の説明

小野神社から関戸へゆく道  
は奥州へ行く道で陣海道といつた」とある。

## 御旅所

くらやみ祭の時の神輿の  
着御する場所  
高札が描かれている。

## 大銀杏

樹令千年といわれる大イチヨウ

## 東照宮

元和4年(1618)創建

## 府中宿

元保14年  
1843の夏  
・人口 2762人  
・家総数 430軒  
・旅籠 29軒

## 相撲場

相撲の土俵は八角もある。

## 神主宅

代々猿渡家  
今は35代目

左上の文  
「木林にはたくさん鳥がいた」と書いてある。

武藏國總社六所明神社 府中驛路の左側にあり。延喜式内大麻止乃豆乃天神社是なり。後世に至りて同じく式内小野神社を合せ祭る。故に今兩社一社の稱あり。神主は猿渡氏、其餘社司社僧等奉祀す。